

1-5 アトピー性皮膚炎の食事指導における発芽玄米利用の検討（第2報）

○小林裕美，水野信之，寺前浩之，忽那晴央，石井正光（大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学）
伊藤幸彦，水口 彩，喜瀬光男，青砥弘道（株式会社ファンケル）

〔緒言〕アトピー性皮膚炎において近年、食習慣が重要な悪化因子と考えられる症例の増加は著しく、我々は食養生を重視する漢方療法を併用し治療効果を高めてきた。中でも主食である米については、発芽玄米の利用の有用性を検討し、昨年の本会にて preliminary report として報告した。今回は、その後の長期経過の観察結果、検査項目を追加し検討を加えた。

〔対象〕通常の治療のみでは皮疹の消失が得られない難治アトピー性皮膚炎で、インフォームドコンセントの得られた患者 15 名。年齢 18 から 33 歳、男性 9 名、女性 6 名。

〔方法〕それまでの治療を原則として変更せず、発芽玄米（ファンケル製）1 日 100~200g 摂取を加えた。臨床症状は皮疹なしから重症までの 6 段階評価を行ない、6 か月以上の経過を重視し 3 段階以上の改善を著効、2 段階を有効、1 段階をやや有効とした。血液生化学的検査、血中サイトカイン等についても経時的に検査した。また、発芽玄米摂取の受け入れについてアンケート調査を行なった。

〔結果〕6 か月以上継続摂取例は 15 例中 8 例で、うち 3 例は有効、5 例がやや有効であった。3 か月以上 6 か月未満が 3 例。3 か月未満の脱落例が 4 例あり 1 例は継続摂取希望せず 3 例は来院困難によるもので、いずれも摂取後の悪化は認められなかった。全例において、血液生化学的検査にて血液学的異常および肝機能障害は認められなかった。また、摂取前 IgE 値の異常高値を示した 8 例中 5 例に低下傾向がみられ、LDH 値高値の 5 例全例において摂取後低下傾向が認められた。

〔考察〕難治アトピー性皮膚炎で、食事療法に発芽玄米を利用した例においては、徐々に症状の改善が認められ、患者の受け入れも良好であった。また、発芽玄米摂取に起因すると思われる検査値異常や副作用は認められなかった。

〔総括〕アトピー性皮膚炎の食事指導に発芽玄米利用が有用である可能性は大きく、検討をさらに進めるべきであると考えた。